

鎌ヶ谷市みどりあふれる都市農業創造プラン（農業振興ビジョン）
第1回策定委員会 議事録

1 開催日時

令和4年7月12日（火）午後3時から午後4時10分まで

2 会場

鎌ヶ谷市学校給食センター 2階 多目的会議室

3 出席者

(1) 鎌ヶ谷市みどりあふれる都市農業創造プラン策定委員（11名）

藤島廣二委員、吉田昭夫委員、川村誠司委員、山崎明委員、
石井秀一委員、石原孝志委員、鈴木利一委員、秋澤修委員、
小金谷茂子委員、酒井京子委員、砂見正子委員

(2) 事務局（3名）

青木市民生活部長、米井課長、小川主任主事

4 傍聴者

なし

5 委嘱状交付式

会議に先立ち、委嘱状交付式が行われ、芝田裕美市長より委嘱状を交付し、挨拶を行った。

6 会議

(1) 委員長・副委員長の選出

互選により、委員長に藤島委員、副委員長に小金谷委員が選出された。

(2) 議事録署名人の選出

名簿登載順にて、吉田委員・川村委員を選出した。

(3) 議題

①見直しの趣旨・策定スケジュールについて

（資料に基づき、事務局より説明）

質疑応答は特になし。全員賛成につき承認。

②現計画への評価（達成状況及び課題）検証について

（資料に基づき、事務局より説明）

質疑応答は特になし。全員賛成につき承認。

③アンケート調査について

資料に基づき、受託者であるちばぎん総合研究所より説明。

【質疑応答】

（委員）

消費者アンケートについて、生産者アンケートの結果を受けて内容変更をすることはあるか？

（事務局）

消費者アンケートの内容は固定とし、変更の予定はない。消費者・生産者各々の傾向を把握し、プラン策定に活かしていく。

（委員）

消費者アンケートについて、項目が多いと戸惑ってしまうため、簡単な2、3項目のアンケートとした方がいいのではないか。

例えば、梨や苺の直売所であれば「利用しやすいか・しにくいかな」、「次回また購入したいか・したくないか」「おいしかったか・そうでないか」など、簡単に答えられる設問を集めて集計した方がいい。その方がアンケート協力を頼みやすく、消費者も協力しやすいだろう。

（事務局）

今回配布した資料については、生産者向けのアンケート案である。消費者アンケートの設問は別となっており、設問数は12問としている。

（委員）

少し多いのではないか。複数に分けた方が消費者の協力を得やすくなるだろう。なるべく簡単に実施するのがいい。

（事務局）

生産者アンケートの様に27問も設問があると、確かに負担が大きくなる。作成した設問については、購入場所の傾向などを踏まえた内容としている。また、回答は「はい・いいえ」の2択から選択するなど、なるべく回答者の手間をかけさせないよう配慮した方式をとっている。

（委員）

生産者向けアンケートが無記名可なのであれば、12ページ問27は、「自由意見・その他」ではなく、「お困り事はございませんか」などとするのが

良いのではないか。農家が困っていることを市政に相談できるよう、意見を書きやすい設問の形にしてもらいたい。実際に困難に直面している農家がいるのであれば、何か書きたいと思うだろう。

(事務局)

貴重なご意見をいただき、ありがたい。設問の修正を検討・反映する。

(委員長)

非常にいい意見をいただけたと思う。アンケート案については今回の意見を踏まえ検討・修正していただきたい。

今回の生産者向けアンケートについて、若干の修正は必要なものの、全般としてはこの内容でよろしいか？

(委員)

全員賛成につき承認。

(委員長)

それでは、事務局は本日いただいた意見を踏まえた上で内容を精査し、アンケート調査・素案作成にとりかかるようお願いしたい。また、内容については字句の表現を含め事務局と調整をしながら行っていくため、委員長に一任いただきたい。

(4) その他

(委員)

自身は酪農を行っている。市が本当に鎌ヶ谷の農業を守ろうとするのであれば、農地を守らなければならないと考える。

現在、専業農家は251件だが、おそらく今後3～5%は減少していき、5年後には200件を割るだろう。相続や後継者不足が大きな要因となっており、そこに力を入れていかないと農家は生き残れず、なくなっていく。

農家も工夫して直売等を行っている。酪農は牛乳をそのまま販売すればよく直売と密接な関係はないが、円安の影響で飼料が高騰しており、大変な状況なのは同じである。消費者のニーズに応えるのもいいが、まず自分を守らないといけない。

農地は相続になれば3分の1は減少する。また、高齢化し後継者がいなければ農業を継続していくことはできない。たとえ機械化しようとしたところで、投資額が大きすぎる。

そこで、ぜひ実現してもらいたいのは、農政課に農業のプロを一人置くことである。農業をやったことがない人では意味がない。

また、農家への手厚い保護が必要だろう。酪農の場合、5～6年前に認定農業者になったばかりの頃、認定農業者でなければ補助がもらえなかった。酪農は

クラスター事業で2分の1の補助が出るため、認定農業者が必要ない。自身は現在、息子と2人、共同で認定農業者になっているが、何の意味もない。見直しの際は年間3%の改善策をあげるよう求められるが、おかしいと感じる。農家は皆ぎりぎり事業を行っており、3%の収益改善など現実的ではない。それらをもう少し緩くするなど、市全体で農家を守る施策を進めていかないと、他市と同じようになってしまう。

大震災が来た場合の逃げ場もなく、その際の被害も懸念しており、農地は残さなければならない。自身は行政で農業は最も大事だと考えている。優秀な人材を派遣してほしい。

(委員長)。

鎌ヶ谷に限った話でなく、どの市においても農業は重要で、どう残していくか考えていかなければならない。いずれにしても、人間は農業がなければ生活は出来ないし、生活していくうえで緑の重要性は誰しも認めている。

実際に農業をどう残していくかが重要であり、先ほどの意見もよくわかる。こうした会議で、様々な意見や具体策を貰えればと思う。皆様の厳しい意見を聞きながら、十分に審議していきたい。事務局にも、その辺りは理解いただいていることと思う。その他、何でも思うことがあれば言ってもらいたい。

(委員)

大災害時の農地活用について、もっと明確になっていると、市民も農地があって良かったと思うだろう。災害時の避難場所というが、そこに実際に何が出来るのかももう少し具体的な話が聞きたい。消費者アンケートでそうした話が出たり、隣家との間にある農地の防災機能などが認識されるといい。都内ではそうした認識が浸透しており、農地は大切に保護されている。

耕作放棄されている農地について、市民農園が閉鎖になっているのであれば、そうしたところを活用できたら良いのではないか。貸農園を企業体で運営し、手入れや出来た農産物を届けるサービスまで行うところもある。大げさに言えば、そういった企業にお願いして、ようやく市民と農業の距離が縮まっていくのではないかと思う。

(委員長)

そうした具体案を挙げて頂けると、実際にどうしていくか見えてくると思う。その他はどうか？

(委員)

以前、小学校の授業で「わたしたちの鎌ヶ谷」という課程があった。そこで、農家は何をやっているのかについて発表をする機会があり、鎌ヶ谷を故郷とする子供たちに「農家があって良かったな」と思わせるにはどうすれば良いか考えた。

実現できるかどうかは別だが、例えば一つの案として、小学校が近所の梨の直売所に行くと、梨を1個もらえるサービスなどが思いついた。子供たちが直売所に行く機会をつくり、子供をきっかけに親や家庭の中で農家について伝わるかもしれない。子供がどれほどいるかや実現性についても全くわからないが、そうした活動ができたらいい。

(委員長)

実現できるかどうかという話はもちろんあるが、様々な案を頂き実現可能なものを検討したい。極端な話、その場の思い付きでも構わない。また今後の会議も含め、積極的に提案してもらえればと思う。

(事務局)

次回の策定委員会については、9月下旬～10月上旬頃を予定している。日程が決まり次第、事務局より改めて通知する。なお、議題はアンケート調査結果や新規計画の方向性等を予定している。

(5) 閉会

事務局より、第一回策定委員会終了の挨拶を受け閉会。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和 4年 7月27日

氏名 吉田 昭夫

氏名 川村 誠司